

令和6年度 第1回地域包括支援センター運営協議会 会議報告書

令和6年6月27日(木) 13:30~15:00

高梁市役所3階大会議室1

- 出席者 難波委員、角銅委員、平井委員、井上委員、水谷委員、三上委員、山下委員、森田委員、仲田委員、原委員(計10名)
- 欠席者 なし
- 事務局 森健康福祉部長、大森健康づくり課長、斎藤福祉課長、秋森地域医療連携課長、東健幸長寿課長、内岡健康福祉部次長兼地域包括支援センター所長、赤木所長補佐、江藤主幹、倉橋主幹、助實主査

○議事概要

1. 開 会 内岡所長が進行

2. 委 嘱 状 交 付

令和6年4月1日から令和8年3月31日の2年任期で10名に委嘱状を交付

3. あいさつ

健康福祉部長あいさつ

事務局自己紹介

4. 役 員 の 選 出

会長に仲田委員、副会長に森田委員を選任する。

会長あいさつ

5. 協 議 事 項 仲田会長が進行

(1) 令和6年度 高梁市地域包括支援センター運営方針

資料1 1ページから5ページ 内岡所長が説明

質問・意見 なし

(2) 本市における高齢者と介護保険の状況

資料6 ページから15ページ 赤木所長補佐が説明

質問・意見

委員: 11ページ、12ページで認定率が下がっているのは、どうしてか。

事務局：全国的な傾向ととらえている。

委員：高齢化率の高い地域からの相談が増えているか。

事務局：傾向としては、高齢の1人暮らしや要介護状態、遠方の家族からの相談が増えている。

委員：介護サービス費の増減の原因は。

事務局：いろんな要因が影響している。通所介護については、コロナ禍の影響と高齢者人口自体が減少しているため、利用者の減少がある。訪問看護や通所リハビリは、医療機関から繋がるので、人数の変化が少ないと考えている。福祉用具を利用して在宅生活を送る方が増えている。

委員：訪問介護の介護報酬改定があり、非常に厳しい状況である。中山間地域では、必要とされている方に対してサービスの提供がきっちり届くのか、事業所側の立場で言うと懸念される。その影響をどのように捉えているか。

事務局：介護報酬が2%減る改定がなされている。都市部での訪問介護事業の収益性を考えたもので、中山間地域の高梁市には当てはまらない。

訪問介護で1番困っているのは人材確保で、ヘルパーの確保と高齢化がある。社会福祉協議会と協力をし、ヘルパー養成講座を開催し、人材を確保しながらサービス提供できるように進めていきたい。

委員：訪問看護が増えてないのは人手不足と非効率。訪問看護ステーションが連携するのは現在の制度は非常に難しい。地区に1つのステーションが入れば随分効率が上がるが、制度上認められていない。中山間地独特の制度にするなどしないとやっていけない。

(3) 令和5年度の重点的な取り組みの報告

資料1 21ページから35ページをパワーポイントで倉橋主幹説明

質問・意見

委員：「早期発見のミーティング」は、健康福祉部だけでなく、他課も連携しているのはすごい。初めて聞きました。

事務局：令和4年度に立て続けに市営住宅入居者が、冷蔵庫を開けても何も入っていない

状態で 3 人程見つかった。市営住宅入居者は市が把握しているが、支援を必要としていても、自分から支援を求めない方もおられるので、住宅係が生活状況が気になる方に、こちらからアプローチをすることで早期に発見し支援につなげるため始めた事業です。

委員： ラインワークスを医療介護連携で、訪問看護、ケアマネ、主治医でライングループを作って情報の共有していました。非常に有効で、スマホでもできるので、時間を問わず情報が得られ、本当に良かった。動画・写真も現場から情報を出してくれたものを見ることができる。また、家族が市外在住で、1 人暮らしの高齢者を見守るのに介護保険を使って見守りカメラを活用した事例がありました。難聴で通話機能は使えませんでした。家族の方は非常に安心材料にはなると感想をお持ちでした。介護保険を使えたので、自己負担も少なく済んだそうです。

(4) 令和 6 年度の重点的な取り組みについて

資料 1 16 ページから 20 ページをパワーポイントで江藤主幹説明

質問・意見

委員： システム検討委員会では、高齢者の足を検討するということですが、具体的にどういうものを検討するのか。

事務局： 交通手段も含め、近隣の方の力や、移動手段についての検討を昨年度からしており、地域では個人の商店が閉店や、移動販売の撤退があります。移動手段もない、公共の交通機関もない地域は、これからどうやって生活を維持していけばいいのかという点から、買い物の移動手段を検討していきます。

委員： 総合的な側面でご検討されるということで、市と企業とコラボレート等は考えていますか。

事務局： 今年 1 年検討する中で、企業とのコラボや連携が出れば取り組んでいきたい。

委員： このテーマは、以前から気になっていた問題。相談に来るにも大変な人がいて、公共交通機関が使えず、移動手段がなくて無免許運転に繋がることもある。単に買い物弱者を救うだけでなく、支援をしないと高梁が生きづらい場所になってしまう。深掘りした手立てを検討していただくとありがたい。

市役所内だけではなく、社協や将来的には外部との連携を考えていく必要がある。重層的相談支援の話にもなってくる。

高齢者に関わる質問としては、緊急通報システムはどういったものですか。

事務局：希望者で、独居高齢者とか病弱な高齢者世帯が対象です。直接包括に連絡がくるものではなく、委託契約をした事業所が2箇所あり、緊急通報装置のみと、緊急通報装置に人感センサー付きのがあります。（一定時間通らなかつたら通報される）利用者が、緊急緊急（相談）ボタンを押すと、オペレーターに繋がり、近所の協力員が様子を見てくれる仕組み。最近、協力員をお願いできない方もおられる。緊急通報装置があることで年間4～5人は救急対応はでき、命が救われたケースがあります。

委員：良い取り組みだと思う。特に高齢者は、固定電話に出ない人もおり、連絡の取り方が難しい。支援の必要な人とどうコミュニケーション取るか、ラインワークスみたいなコミュニケーションツールがあれば、特に高齢化が進んでいるところには、多少高価でもいいから連絡が取れるようにすることも必要だと思う。

委員：通所付添サポート事業は高梁市が一番活動している。今年度新たに予定している地区はあるか。

事務局：今年度新たな地区はなし。サポーターの補充のため、養成講座に10人ぐらい申し込みしている。

（5）その他（赤木所長補佐）

家族介護者の集いについて説明。

6. 閉会

閉会あいさつ（森田副会長）